

主にあって堅く立つ

ピリピ書4章1節
2010年6月27日

9

I (そういうわけ)だから

1. ピリピ書の特徴: 信仰と生活を成長で統合
2. キリスト者の成長の要約(3:17-21)
 - ①パウロ達の模範②十字架に背を向ける人々
 - ③天国が国籍④キリストの再臨⑤復活の希望
→天を仰ぐ生涯(コロサイ3:1-4)
3. 具体的な生活の勧めへの接続の言
→ローマ書12章1節(信仰と生活を献身で統合)

10

II ピリピ教会員のIDの確認

1. 私の「愛し、慕っている、兄弟たち」1:8
2. 私の「喜び、冠、愛する者たち」1:6
3. 力ある勧め(聖霊の慰め・励まし・勧め)
 - ①父なる神の愛、神の子の確信、使命の自覚
 - ②愛、価値、信頼、使命、希望(信仰・希望・愛)
 - ③外的動機でなく内的動機→愛の自主性の尊重(福音:慰め・励まし・勧め)→内住の聖霊

11

III ピリピ教会員への勧め

1. このように→み国を仰ぐ生涯を送る者として
2. 主にあって→キリストの恵みによって
3. 堅くたちなさい
→①クリスチャン(神の子としてのID=旗印)を明確にする②健全な信仰に立つ③聖霊によって歩み、信仰(愛と真理:み国の価値観:み国の前進)の戦いに参加する←1:27-30

12

聖書の適用

1. 信仰と実際生活を統合するものは?
→神の子のID(神の国の代表、前進の使命)
2. そうでなければ信仰と実際生活は分離
→世俗主義(サドカイ派)、律法主義(パリサイ派)、世俗からの分離主義(エッセネ派)
3. み国の前進のためには→神の子のIDの自覚が決定的に重要: 神の子の身分を福音と聖霊、祈りと交わりで確信しよう

13